

製鋼スラグ活用 リサイクル拡大



清本鐵工、路面材を製品化

【宮崎】清本鐵工（宮崎県延岡市、清本邦夫社長）は、製鋼スラグを使ったリサイクル製品の普及に乗り出した。グループ会社の九州製鋼（福岡県久山町）の製鉄工程で出るスラグを使う新たな路面材を製品化し、新規事業として育成する。産業廃棄物の削減につながる環境配慮型製品として広める。

産廃削減、新規事業に育成

今回の製品の名称は「ばどれすロード」。今春に本格発売した。

製鉄工程から排出されるスラグを100%活用する。耐久性に優れ、浸透性、保水性の良いポーラスコンクリートとして利用できる。

清本鐵工は2018

製鋼スラグをリサイクルした路面材「ばどれすロード」

年にもスラグを使った補装材を製品化。その後も道路工事に使える強度を持つ製品の開発を目指していた。九州製鋼では年間約1万2000トンのスラグを排出する。大半は、路面材の下層で道路を支える路盤材などに利用され、リサイクルされる。しかし同300トンほどは産業廃棄物となり、処理費用がかかる。路盤材を使用する道路工事が減少傾向にあり、スラグの在庫量が増えていることからさらなる活用が課題となっていた。新製品は保水機能があり、治水や防災にも効果があると期待される。当面は九州製鋼の事業所がある佐賀県内で普及を目指す。清本鐵工の安藤裕彦インフラ建設事業部長は「製品規格の厳しさがあるが、酸化スラグの比重の大きさなどを生かし、コンクリート二次製品などへの応用も進めたい。5年以内には1億円の売上高を目指す」としている。